

アクションプログラム検討のための視点について

1 アクションプログラムの位置づけ

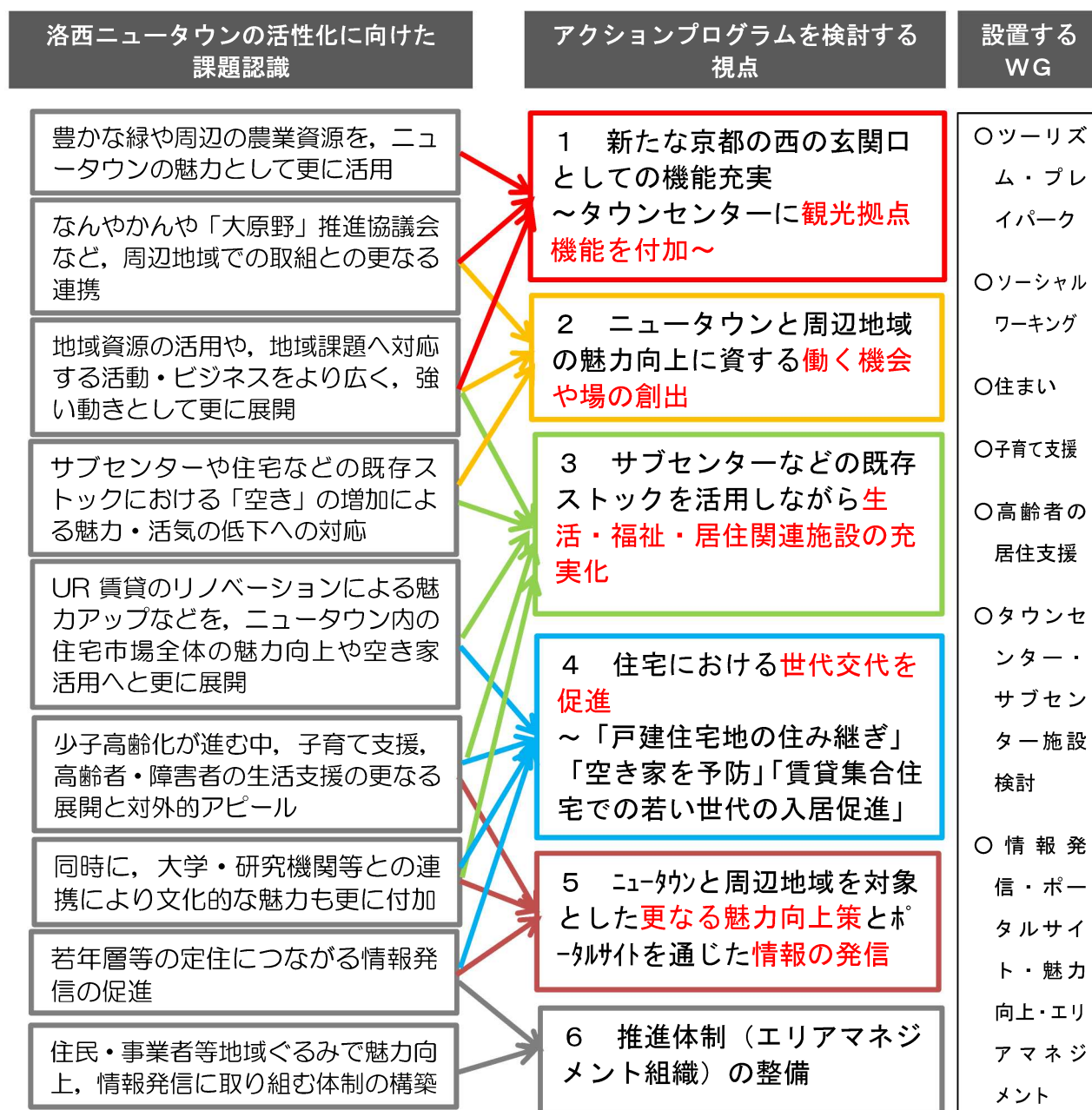
- 洛西ニュータウンまちづくりビジョンの策定から10年が経過しようとしているが、その間に進捗したことや社会情勢の変化を踏まえ、喫緊に重点的に行う必要のある取組をアクションプログラムとしてとりまとめるものである。
- アクションプログラムは、まちづくりビジョンの理念を踏襲しつつ、今後4年間程度で実施する具体的な施策・事業を整理し、実施主体を具体的に想定したプログラムとする。
- アクションプログラムは、「地域住民・団体等」「企業」「大学」「行政」など、洛西ニュータウンの活性化に関して関わりを持つ多様な主体が、それぞれの役割を持ち、連携して取り組むための具体的な内容を盛り込んだプログラムとすることを想定している。

2 アクションプログラムを検討する視点

課題認識

- 人口減少・少子高齢化が進む洛西ニュータウンにおいて、多様な世代の生活支援に取り組むとともに、特に若年ファミリー層の呼び込み・定住促進を実現する具体的な取組が必要である。
- そのために、まちの魅力を向上する取組を進めつつ、その魅力情報を発信する取組を平行して進めることが必要である。
- まちの魅力を向上する上で、以下のような点が課題となるのではないか。
 - ・ 豊かな緑や周辺の農業資源を、ニュータウンの魅力として更に活用
 - ・ なんやかんや「大原野」推進協議会など、周辺地域での取組との更なる連携
 - ・ 地域資源の活用や、地域課題へ対応する活動・ビジネスをより広く、強い動きとして更に展開
 - ・ サブセンターや住宅などの既存ストックにおける「空き」の増加による魅力・活気の低下への対応
 - ・ UR 賃貸のリノベーションによる魅力アップなどを、ニュータウン内の住宅市場全体の魅力向上や空き家活用へと更に展開
 - ・ 少子高齢化が進む中、子育て支援、高齢者・障害者の生活支援の更なる展開と対外的アピール
 - ・ 同時に、大学・研究機関等との連携により文化的な魅力も更に付加
 - ・ 若年層等の定住につながる情報発信の促進
 - ・ 住民・事業者等地域ぐるみで魅力向上、情報発信に取り組む体制の構築

以上のような課題認識を踏まえ、洛西ニュータウンアクションプログラムでは、次のような視点から、具体的な取り組み内容を検討することを想定している。また、それらの視点をもって具体的な内容を検討するワーキンググループを設置する。



キャッチコピー（あくまで例）

見(観光)て、遊んで、働ける、自然も豊かな洛西ニュータウン！
～「観光」「就業・起業支援」「情報発信」するニューエストタウン～

（補足）西京区・洛西地域の新たな活性化懇談会：平成28年度に、地域住民が望むまちの将来像についてとりまとめた活性化ビジョンを策定⇒当該ビジョンとの関係